

第17回研究会を6月17日（木）に
湯梨浜 龍徳寺で行いました。



↑紙芝居の上演

今年度になって、

湯梨浜では初めての会でしたが、昨年から引き続き出席された方が多かったです。

昨年紙芝居仕上げ前の意見が多く出て、修正していたので、今回は完成品を見ていただいた。ブックレットの目次立てに添って、前回鳥取市で読んだ第1章・第2章を、今回も学ぶため読んだ。かたの育った松崎でのこと、和田の知行地の頃のこと、明治になり西南戦争で不在がちのかたと養母千代子の住まいなど、確認することができた。

邦之助の実妹、嘉永三（1850）年生れの

鶯殿波鶴子なみつるこは松田道之の妻になっていた。（昔

は女性のことは記録になっていないので、かなり

探しくい）又かたの実弟 信孝は松田の養子

（になり、三九歳で病没）という、松田家と碧

川家とは強いつながりだったことがわかった。

第3章三木節次郎と結婚

この章はたつのの会員志水氏に原稿の作成

を依頼していた。

養父堀正が着任した龍野監獄分署のこと、た



↑研究会の様子

つのでの養父 翠菜教順はなつのこと、三木家の

他の家族のことなど地元のことを話して

もらうと、初めて知ることが多く、有意義

なものであった。

子守りねえやは、たつのに「ねえや学校」

があつたくらい、当時多くいたが、露風に

ねえやがいたかどうかは不明である。

志戸坂峠越えに人力車が使えたかどう

かに前から疑問を持っていたが、明治20

年代頃によく志戸坂峠を人力車で通

れるような幅員3呎くらいになっていた。

しかし当時の人力車は空気タイヤやスプ

リングのないものなので、かなり辛いも

のだったろう。

三木家なり翠菜家はなつから同行の従者がい

たかもしれないが、険峻な県境を若い、か

たさんが勉を抱いて鳥取に帰ってくる

というのはなんと悲しいことだろう。

たつの霞城館でパネル展

研究会で作成したパネルが今年は県外デビューをすることになりました。かた没後 60 年、又露風の「赤とんぼ」の歌ができて 100 年を記念して、たつの霞城館でイベントをするので貸してほしいと、頼られました。お役に立ちますようお願いしています。

初めて研究会に参加して

「赤とんぼの母 碧川かた」が、私の暮らす中部地区と縁があると知り、興味を持つようになりました。今回は会場が湯梨浜町の龍徳寺さんだったので、思い切って出かけてみました。大きな築山があり、池に浮かぶ黄色とピンクの睡蓮の花、岸辺の半夏生が美しかったです。

今回はブックレット作成に向けての検討が主な内容でした。完成版の「赤とんぼの母」の紙芝居が是非見たい、という声があがり、四井会長による上演が行われました。そのお陰で、かたが禁酒運動を展開したことを知りました。女性の権利を訴えるかたの強さ、それは、「赤とんぼ」を作詞した三木露風が幼くして別れても忘れることのなかった母、かたの優しさに裏打ちされていると感じました。

そして、ブックレット第1章と第2章の再検

討、第3章の検討が行われました。初めて見聞きする私にとっては半分も話について行けませんでした。しかし、多くの文献から浮かび上がったくる実父母、養父母たちの生い立ちや生き様は、かたの人格形成に多大な影響を与えたのだと思いました。また、地元の方が伝え聞いておられる乳母のお話も興味深いものでした。離縁し、露風を残して鳥取に戻ったかたは、どんな出会いを通して社会問題に関わっていくようになるのでしょうか。かたに影響を与える人々はどんな生き様を見せてくれるのでしょうか。第4章以降も楽しみです。



多くの史料を見つけてくださった皆様、ありがとうございます。碧川かたのことをもっと知りたいと思いました。

倉吉市 中尾景子

● 次回の研究会は米子です。

【日時】 令和3年7月29日（木）

午後1時半～3時半

【場所】 米子市立図書館2階第3・4

研修室

【テーマ】第4章 かた東京へ

堀正の上京、碧川企救男の生い

立ち、かたの看護婦養成所生活と

看護婦時代を検討します。

※紙芝居の上演もあります。

どなたでも参加できますので

マスク着用で、気軽においでください。